

# 京極読書新聞 <第83号>

発行日 平成28年10月1日(土)  
京極町生涯学習センター湧学館

## 京極中学校 職場体験学習

# 2016



### 大西 美月さん (2年) 小出 紗羅さん (2年)

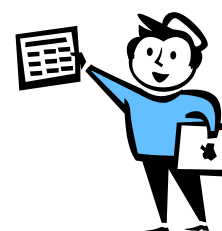
新谷 2日間の職場体験学習、お疲れ様でした。  
大西・小出 はい。ありがとうございます。  
新谷 今年の京中職場体験は、今までになかった要素がいっぱい入ってきました。京極町開基120年の年ということもあって、例えば、二人が朝の開館準備をしている時、カメラがまわっていましたね。湧学館の職場体験風景が映像で残ったの、これが初めてだったりします。



### 【ブックトーク】

- 新谷 初めてといえば、小学校への出前図書館と京中職場体験の日が重なったのも、これが初めてです。滅多にないチャンスですので、南京極小学校の出前図書館にも参加してもらいました。
- 小出 あんなに近い距離で、しかも少人数に話すことはイメージしていなかったので驚きました。
- 大西 小学校の時にブックトークの学習もやりましたが、その時は話す相手は同学年です。9月15日の出前図書館みたいに、1年生から6年生まで全員を前にしてブックトークをしたのは初めてです。でも、新鮮な感じがしました。
- 新谷 ブックトーク以外にも、読み聞かせとかアニメーションとかいろいろな技が図書館にはあるのですが、この場合にはこの技といったきまりはないんですね。南京極小学校のように「少人数」「全学年」「昼休みの15分」という条件の時には、テーマを持って行く本にメリハリをつけたブックトーク主体に話を組み立てますし、逆に、京極小学校のように「1時間」の授業時間枠をフルで使えたり、「30人規模」の1クラス全員が相手といった場合は、読み聞かせやアニメーションの要素をふんだんに取り入れたブックトークになったりいろいろです。生徒ひとりひとりの個性ってものもありますね。

京極読書新聞は  
毎月1日発行予定です



## 【バックヤード】

小出 どうしても、図書館の仕事というと、本の貸出・返却のカウンターの仕事をイメージしてしまうのですが、その仕事を成立するために裏側であんなにたくさんの仕事をしていることに驚きました。

大西 私も同感です。でも、基本的に、図書館に届いた新しい本を誰よりも先に手にして、あれこれ装備をする仕事は本当に楽しいです。

新谷 本が好きな人には、一日中本に囲まれて仕事ができることは幸せなことですね。具体的には、どんな仕事がおもしろかったですか。

小出 ブッカーです。家から持ってきた愛読書の『粉雪』にブッカー（透明ビニールのブックカバー）をかけることができ、すごくうれしい。

新谷 本の修理で、大西さんの持ってきた『ハリー・ポッター』シリーズが、本当に模範的な壊れ方（？）をしていて修理に気合いが入りましたよ。

大西 毎日どのくらいの修理本が出るんですか。  
新谷 一日、5～10冊でしょうか。京極小学校の朝読書用に常時約千冊の本が団体貸出で行っていますが、年5回の入替えで前回分の千冊がどーんと返ってきた時などは100～150冊くらいの修理本が出ます。

小出 修理できない本はありますか。  
新谷 破れたり、ページが外れたりした本はなおせませんが、水に濡れたり、コーヒーをこぼしたりした本はなおせません。そういう時は、除籍して、古本市に出したりします。

大西 3月の古本市には毎年どのくらい本を出すんですか。

新谷 古くなったり、汚れたりした除籍本が約500～600冊。寄贈された本の内、湧学館ですでに湧学館に蔵書に入っている本は寄贈者の了解をとって古本市の方にまわします。古くなった雑誌約300冊と合わせて、合計で約1000冊くらいの本が毎年古本市に出ているでしょうか。





## 【選書／ブックキャラバン】

大西 私はブックキャラバンの選書に参加できてうれしかったです。

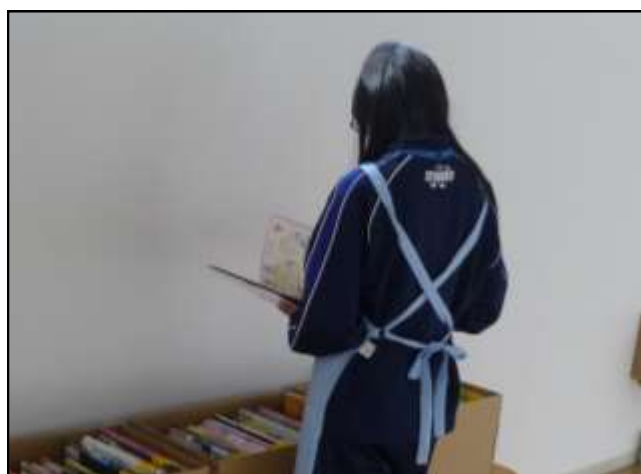
新谷 ああ、それもありましたね。普段は『週刊新刊全点案内』というカタログを使って本の選定を行っているんですが、年に何回か、書店が直接本を持ってやってくることもあるんですね。今回は、そのブックキャラバンと職場体験学習の日も重なりました。こんなことはじつに稀です。

小出 新しい本にさわって選べるのがいちばんいいです。

大西 私も「直感買い」の人なので、本をいくらでも手にとれるのは本当にうれしいです。

小出 新しい本は毎回何冊くらい入ってくるんですか。

新谷 毎月150～200冊くらい。年間で約2千冊の本が増加します。今、湧学館の蔵書数は約6万9千冊ですが、年内に7万冊台に入るでしょう。



## 【図書の展示】

新谷 今回は「敬老の日」の特設展示の横に、二人に「中学生はこれを読め！」というタイトルの特設展示をつくってもらったのですが、思っていたよりもテキパキとつくりあげたので感心しました。

大西 スペースがテーブル1台分と限られていたので、本をいっぱい並べられなかったのがちょっと残念です。シリーズものの本なんかはバーンと出したかったけれど。

新谷 時間ももっとかけられれば…とは思いましたね。でも、限られた条件の中で最大限の効果を追求するというのはどんな仕事でも共通課題です。限られた時間内で展示「中学生はこれを読め！」をつくりあげたというところに、二人のセンスや能力があるん

ですよ。

小出 どうして「中学生」というテーマにしたんですか。

新谷 「青少年の読書離れ」って、それこそ私が青少年だった時代から言われ続けている問題ですが、それは本当なのかなあという思いが昔からあります。むしろ、今も昔も、本を読まなくなったのは大人たちではないかと思うところもあって、「大人たちよ」という呼びかけをこめて、あえて中学生に推薦図書コーナーをつくってもらいました。毎年「京中生インタビュー」をやっている実感から言っても、中学生が今読んでいる本にはおもしろい本がいっぱいあると思います。



## 発行

京極町生涯学習センター湧学館  
〒044-0101 京極町字京極158番地1  
TEL 0136-42-2700(代表)  
FAX 0136-42-2032  
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください  
<http://lib-kyogoku.jp>

